

■見附市小中学校の適正規模に関する意見交換会 会議録

日 時：令和 7 年 6 月 4 日(水) 午後 7 時から午後 8 時 30 分

会 場：見附市役所 大会議室

参加者：30 人

事務局：渡邊教育長、近藤教育部長兼教育総務課長、武石教育総務課課長補佐、山谷副主幹

(司会)

ただいまから「見附市小中学校の適正規模に関する意見交換会」を開会させていただきます。初めに見附市教育委員会教育長から皆様にご挨拶を申し上げます。

(教育長)

皆さんこんばんは、教育長の渡邊茂夫でございます。

大変ご多用の中、見附市小中学校の適正規模に関する意見交換会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。さて、皆様ご承知のように見附市立学校配置等検討委員会は昨年度 1 年間かけて 7 回にわたりまして、見附市としてこれからどのような教育環境を目指すべきかについて慎重なご審議をしていただき、たくさんの面から検討していただいたところでございます。

そして 3 月 19 日に見附市における市立小中学校の適正規模適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と、実現に向けた方策についてという答申を出していただいたところでございます。

今後、教育委員会におきまして、市民アンケート等を実施した上で、答申を具体化して、学校適正配置計画案を作成してまいる予定でございますが、本日の会は、答申について皆様方からぜひ少しでもご理解を深めていただきたい、そのことを一番の目的として開催させていただいたものでございます。

そのためにまず事務局より答申について、その背景も含めた概要について説明させていただくとともに、答申に対する市民アンケートの実施等、今後のスケジュールそういったことについて説明をさせていただく予定であります。

その後、ご参会の皆様方から答申の内容等について、ご質問も含めましてどのように受けとめ、どのように考えるか、こういったことについて意見交換をさせていただきたいと思っております。

ところで、冒頭に申し上げました見附市立学校配置等検討委員会におきまして、私が検討委員の皆様方をお願いしてまいりましたことは、平成の大合併において自律の道を選択した見附市が将来にわたって持続可能なまちであり続けるために、見附市の未来を託す子どもたちには、どんな力を身につけていくことが大切かということをベースに置きながら、それをより着実に実現できる学校というのはどういう学校なんだろうか、そのために市全体としてどのような教育環境を考えていけばいいのか、目指していけばいいのか。

このことをぜひ大事にお考えをいただきたい。何よりも子供たちのことを第一に考えていただきますようお願いいたしますということを申し上げさせていただきました。

検討委員の皆様方からは、見附市の未来を託す子供たちのための学校のあり方ということ
を大事に受け止めながら議論を積み重ねていただき、答申としてまとめていただいたもの
と受けとめているところでございます。

また皆さんご承知のように、見附市では誰もが暮らし満足 No.1 と思えるまちの実現を目指
し、子育て世代の皆さんからは、子育てするならやっぱり見附と思っていただけるよう、
様々な施策を進めてきたところでございます。そのような中、見附市における令和6年1
年間の出生数が190人ほどであったということがわかりました。現在、小学校中学校各学
年それぞれ、見附市全体の児童数生徒数はおおよそ300人前後ですので、この190という数
字は非常にショッキングな数字として受け止めたところでございます。

ただ、新潟県内の自治体の中では人口割合の出生率という点で見ますと、第4位という高
い数字でありました。このことは、見附市が大きな力や魅力を持っているんだというこ
を表していると私は受けとめております。ですので、これをさらに高めていく必要があ
る、そんなふうにいるところでございます。

今後も見附市が持続可能なまちであり続けるためには、見附市の持っている力、魅力をさ
らに高めて、人口減少や少子化に歯止めをかけることが重要なことであるというふう
に考えております。そのために教育委員会では、「見附市で子育てしたくなる教育」この実現を
目指して取り組みを進めていくことが重要だと考えております。

単にこれまでの取り組みを強化するだけでは決して十分とは言えないというふう
に思っております。

この学校の適正配置等のあり方は、見附市で子育てしたくなる教育を実現することと、大
きく関係する非常に重要なことだと私自身は考えております。

結びになりますが、本日限られた時間でございますがこのこれからの会を通して、皆
様方にとりまして答申への理解が深められるとともに、見附市の未来を託す子供たちのた
めの学校のあり方ということについて考える有意義な時間としていただきますよう、
お願いいたしまして、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

これからの時間、どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

(司会)

申し遅れましたが、私本日の進行を務めさせていただきます教育委員会教育総務課の課長
補佐の武石でございます。本日はよろしくお願いいたします。

まずは資料の確認をさせていただきます。皆様のお席に本日の次第を兼ねておりますが青
色のカラー刷りが一部入りましたA4ホチキス止めの「見附市小中学校の適正規模に関する
意見交換会」というものが一つ。それから二つ目になりますが、このA3カラー二つ折りの
「見附市立小中学校の適正規模適正配置等の目指すべき教育環境について 答申」のいわ
ゆる概要版。三つ目でございますがA3のモノクロ二つ折りになりますが、「見附市立小中
学校の適正規模に関する市民アンケート」の3部になっております。不足等あれば手を挙
げていただきましたら、後ろからスタッフが追加を出しますので、皆さん資料の方はよろ
しいでしょうか？

本日の進行の進め方ですが、この後、次第の3議題で事務局から説明を行いまして、皆

様方との意見交換とさせていただきたいと思います。概ね全体で8時半を一つの目途としております。限られた時間の中ですが、進行にご協力くださいますようお願いしたいと思います。それでは議題に移ります。

3 議題、本日意見交換のテーマとなります、この3月に答申のありました「見附市立小中学校適正配置等検討委員会の答申」について、教育委員会事務局教育部長から説明をさせていただきます。

（事務局）

教育部長兼教育総務課長の近藤です。よろしくお願いします。

本日は、見附市の目指すべき教育環境について検討していただいた学校配置等検討委員会からの答申について、その背景と内容、その後のスケジュールなどについて説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

それでは資料の1ページをお願いします。

（資料について説明）

説明は以上です。

（司会）

ただいま説明の方をさせていただきました。それでは次第の4の意見交換に移りたいと思います。これまでの説明についてご質問やご発言、もうちょっとうるさく聞きたいということがございましたら手を挙げていただいて、その際にはお住まいの地域または町名、そしてお名前を言っていただいて、ご発言をお願いしたいと思います。

手を挙げていただいたらこのマイクを持っていききたいと思います。それでは、正面の方から。

（参加者）

今町に住む〇〇という者です。よろしくお願いします。私、子供が来年小学校に入学する年に差し掛かっておりまして、この問題にはちょっと関心がありますので、今回ここに来させてもらったんですけども、私この答申等々以前に読ませていただきましたし、今日もご説明聞いた中でちょっと気になったのが、スケジュール急ぎすぎなんじゃないかというところを言わせてもらいたいと思います。

これ、他市の例になるんですけども、三条市、隣の三条市小中一貫校嵐南学園等を作るときですね、これかなりもめたというふうに私記憶してます。あのときはそれでもできたんですけども、やはりかなりの市民集会が行われたりとか、そういうものがあつたりとかつていうのを記憶してまして、あまり拙速に進めすぎると、やはりしこりが残るんじゃないかと。

何でこういうことを言うかというとはですね、私、答申と資料編を読んだんですけども、気になる点が二つありまして、今回の資料のP9の下の方にある中学校は9学級以上が望ましい。これを当てはめてですね、資料編12ページというところをホームページに載っていたところを見ると、2036年の推計を見る限りですね、中学校を見附市で持つのは一つか二つという計算にしかもうならない。単純に計算するとそういう計算にしかならないんです。そしてですね、施設の老朽化。これ今回の6ページのところに資料があつたんですけども

これホームページの資料には12ページ、資料編の12ページってところがあってですね、これご丁寧ですね、南中と今町中のところに四角囲みされておりまして、50年ぐらい経ってくるからもう維持管理費がかかるからこの二校ターゲットなんじゃないかなっていうような書かれ方をされてたもんですから、私今町の住民ですので、こういう書かれ方をすると私あまり感情的なことを申し上げたくはないですけども、ないですけども愉快ではありません。率直に言って。他市の例、他町の例で言うと、例えば湯沢町の湯沢学園、小学校4校それと中学校1校に統合して小学校も湯沢小学校、中学校も湯沢中学校にまとめたときはですね、大体3年ぐらい時間をかけて計画作ったというふうに私理解してます。これ何でこれ読んで不愉快になるかというのですね、お金の話とこれ一緒に書くから、これとってもよろしくないと思うんですよ。私がこの文章を書いたらこの面はあのバツサリ切りました。この面を言って欲しくないからです。

これを言い出すとお金がないから学校を切ろうというのかと、こういう話が出てきかねない。こういうところをですね、もっと丁寧にやってもらいたいというのが私の希望です。個人的にはですね、規模の話と立地の話、これ分けてもらいたいんですね。これをごっちゃにしてやろうとするとですね、見附旧市町村でいうと、見附町、旧でいうと見附町だけではなくて、今町とか新潟、上北谷、それから北谷は南部と北部に小学校ありますけどもそれと葛巻、こういうところにまんべんなく小学校配置されてるんですよ。

こういうところにですね、地区それぞれですね、アイデンティティが全く違うと。特に私今町の住民なんで言いますけども、今町っていうと、見附に行くことは見附に行ってくると未だに私なんかそう言います。見附祭は見附町のお祭りだと思ってます。私、そういう人間なんです。

で、我々にとっての大きな祭りって風合戦だと思ってるんです。今町の人間で、そういうところがあるんですよ。そういうところを立地の話と規模の話を合わせてやると、ごちゃごちゃになって大体多分下手にやるとこれしこりが残ると思います。こういうところを丁寧にやってほしいですし、個人的には規模の話を先行させて、例えば案いくつか市から案出してもらいたいと思うんですよ。

例えば小学校4校中学校2校の組み合わせなら、こういう利点があってこういう問題点があるとか、小学校4校にして中学校1校にした場合はこういう利点があってこういう問題点があるとか、複数案を示してもらって、まずあの規模の話から解決していったらどうかというのが私の希望です。

最後になりますけども、繰り返しになりますけども、この話をですね地域のアイデンティティ無視してですね、こういうことをですね、事務的に進めると多分あのしこりが残って三条みたいな事態になることを私は懸念しますので、このスケジュール感、年度内に配置計画公表っていうところですね、私は少し早いかなと見てます。

もう少し丁寧に議論を落ち着かせるためには私時間が必要だと思いますので、そういうところをご配慮いただきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。以上です。

(事務局)

はいありがとうございました。まず資料編で、ちょっと今ここで画面に出せなくて申し訳

ないんですけれども、確かに資料編の老朽化のところで、中学校のところに赤字があった資料があります。これ、その資料を作ったその理由がですね、長寿命化計画というのを見附市では策定しておりまして、それに合わせて長寿命化工事を行う計画があるのですけれども、その対象になるのがやはり経過年数の経って古いのが、建築年数でいくとこの2校になりますよということで、ハイライト囲みということになっていました。そういうふうにとられてしまったのは非常に申し訳ないというのと維持費の関係ですけれども、もちろんお金の問題ではなく各地区それぞれの学校があり、運営しているわけですし、お金がないからそういう統廃合した方がいいんじゃないか、そういう意見では全然ないんです。これぐらいのお金が今かかってますよという現状をまず示させていただいたのがこの資料編の方で、お金の方の資料を今回も少し出ますけれども、そういう意味で老朽化の資料は作らせていただいたということです。

他市では3年ぐらいかけて計画を作られてるということで、そのスケジュール感が早いんじゃないかというご意見いただきました。確かにスケジュール早いように見えるかもしれないですけれども、さきほど途中で説明したようにタウンミーティングのときからですね、市民の意見をお聞きしながら少しずつやらせていただいております。その中で学校のあり方についても考える時期ではないのかということで、検討委員会を作らせていただいて、検討委員会の中で会議、議論を重ねていただいて、答申書をいただきました。

それに沿って、今度は教育委員会としてどういうふうにか考えるかという案を示させていただきたいということで、このスケジュール感というのになっています。

あと地区別の規模と立地を別々に考えて欲しい、確かに今回の資料にもありますように、国が示している資料では小学校で学年2学級、中学校で学年3学級というのが標準的な規模として手引き等で示されております。ただその後にありますように、「ただし地域の実情に応じて柔軟に対応する」というのがあるんですね。それは検討委員会の中でもお示しして皆さんに検討していただいているので、この答申の中でも地域の実情を反映してというふうになってるかと思うので、必ずしもこれこだわるという答申ではなくて、教育委員会としても答申を尊重して考えていきたいと考えております。

（参加者）

結局このスケジュールはかえないということでしょうか。

（事務局）

現在のところはこのスケジュールでいきたいというふうにか考えております。

（司会）

はい、他にまたご発言あればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか？はい。

（参加者）

私、椿沢在住の〇〇〇といいます。先ほど内容等々いわゆる教育委員会の方から概要説明いただきましたけど、先ほど今町の方の質問じゃございませんけども、私本当のネックはね、要は予算がないからと、だから結論から言いますと見附第二それから上北谷、田井小学校。この三校を何とかしようというのが、私市側の本当の根本じゃなかろうかとか思っています。

名目上はある程度、小規模校はオープンスクールだとかいろいろ対策は練っているけどもやはり地理的な面からいってこの見附それから上北谷、見附第二。これは正直言って全体的にもなんていいますか児童は減っておりますので、これは相対的な全国的にどこも同じだと思うんですけども、ただまあ私こんなこと言うのも失礼ですけども、ちょっと前の方に市会議員の方々もいらっしゃいますけども、要は予算が伴うからということで正直言って田井小学校、例えばですよ、校長先生、教頭先生が児童がいくらもないのに、教員の何て言いますか、固定経費がかかる。さらにまた学校建てていけばクーラーを設置しているとか、あるいはいろんな面で、設備等で維持管理がかかるということで、要は結論は、私はある程度はね、この辺三校に絞ってらっしゃるんじゃないかならうかと。

それで地域の方々の協力を仰ぐより手がないんだというのが結論じゃないかならうかというのは、本当は目に見えてるんですけども、こんなこと言うのは失礼ですけども、かつては市長さんがこの会等で、いや小規模校は小規模校でいいところあるから存続は図っていきたい。さらにまた今この件に関しては当面は大丈夫だということをつい最近まで聞いたことがあるけども、こんなこと言うのは失礼ですけども新聞等からいくと、加茂市が大々的に対応していったらと見附も加茂とはかつては規模的に似た様なものだという面も、多分見附は内々に、加茂さんあたりが強行されるのであれば、見附もある程度予算の絡み等から言って右倣えというわけじゃないけどもいい機会だということでこういう統廃合を前向きにどんどん進めていこうという考えではなからうかなと私は思っているんですよ。いくらでもこれね、意見集約したりなんだかんだ言ってもそう言っちゃ失礼だけれどもアンケートを取ったからって言って前向きな対応はこれは私はちょっと早計と言われれば早計ですけども、もう小規模校は要は金がかかるから、見附市財政から言っても厳しいんだと、この辺一つ皆さん考えてくんねかと、ついてはまた中学校もそういう頭でいるんだろうと思いますけども。

要はね、結論ありきで言われると、しこりは絶対に出ると思うんですよ。その辺はね本当にこれも難しい問題だと思うんですよ、どこまでいっても。私は本当はこんなこと言って失礼だけれども、せっかくオープンスクールになってるのであれば、例えば葛巻さんあたりは何て言うのか地域的な面で人口は増えてると、こんなこと言えばあれですけど、例えば長岡の附属小学校へわざわざ通わしている人もいるわけですよ。

ということは学校に附属小学校はいじめもないし教育レベルもいいというような頭が水面下で親を持ってるんじゃないかならうかと、そういう意味からそれをせっかくオープンスクールを考えるのであれば、大きい学校をできるだけ送り迎えは配慮するんで、積極的になんていいますか平等になるわけではないけど、ただ地域割りだけで持ってくると、もう見附、上北谷、第二小学校はもう地理的にどうにもならないもんでやってますんでその辺をまずは切り離して見附全体でことを考えていただければ、ある程度また打開策も出ようかなと、ただ見附あるいは私もさっき樺沢の住民と言いましたけども学区分けされると、もう正直言ってジリ貧ですよ。

これ正直言っていくら意見交換やっていっても、反対はどこまでも言って反対。とは言っても予算の絡み等で悪いけどのんでくれないかと言われればのまざるを得ないと私はそう

いうふうに、既に市全体を通してよりも市の執行部はこの三つを何とか早く予算の面からいって、統廃合に持っていきたいという腹は持ってるんじゃないかなろうかと、かように思っているんですけどもその辺率直に前向きに聞くのとってというか表向きで聞くと、いやそんなことありませんって言われるけど本当の真意はやはり予算が伴うと思うんですよね。予算が伴う関係上、小規模校はとてもじゃないが1人当たりのコストがかかるからまあ何とか理解してくれないかなというのはこれは市のなんて言いますか本音じゃないかなと私は本当は思ってるんですけど、こういう座談会やってあるいはまたアンケートをとって、本当に私ほら（聞き取れず）にもね、みんなの意見を聞くということで本当に大事なことですけども要は予算さえともなえば、小規模であってもやっていけると思うんだけど結局先立つ予算がだんだんだんだんなくなる。ましてやコストがかかるとなれば、悪いけどちょっとのんでくれないかなと言われればのまざるを得ないんですよ。だからそういったわけでも座談会やろうが意見集約やろうがある程度市の考えは固まっているんじゃないかなと私は思ってる。そこを待たかけるのは議会だとは思いますが、また議会の議員の皆様方がどう思ってるのか最終的には議会の承認ということになるんでしょうけど、それはちょっと私は本当、私見ですけど、述べさせていただきましたのでよろしくお願いします。

（司会）

それでは、お願いします。

（事務局）

はいありがとうございました。

まず一つ目なんですけど、お金、予算がないからっていうところなんですけど、冒頭教育長も言ったようにこの問題を考えてもらうときに、視点は子供、未来の子供たちのためにどうやったらいいのかっていうのをまず一番に考えてくださいと、それがスタート地点です。本当に今、子供たち少なくなってます。クラスに何人もいないこの状態でそのままちゃんと教育の質が、これで大丈夫だろうかという声を、やっぱり、保護者の方からいただいているところがそういうスタートにもなっておりまして、とにかくまず子供たちのためにどうしたらいいのかっていうのを考えてくださいと。確かに予算も当然、市ですので必要です。学校を維持するには必要ですし、ただ教員さんの費用は県からのお金ですので、あんまり関係ないんですけども、維持するお金は市のお金になるんですけども、一応参考としての数字は出しましたけども、メインはとにかく子供たちの教育についてどうやったら、この先もっと本当に5年後6年後、この今見てもらった数字になっていく中で、どうやったらいいのかということのを第一に考えてくださいというのがスタートで、それについて考えていただいたということであって、あくまでもお金がないからとかそういうのを前提に最初の答えありきみたいなことではないですので、そこだけはご理解をいただきたいと思います。

あと、オープンスクールについての全体で考えるっていうのは、学区とかをなくすみたいなイメージでしょうか？ちょっとそのくだりがわからなかったんですけども、オープンスクール確かに小規模校ならではのいい面が非常に多くあります。それについては、私

達も非常に高く評価しておりまして、タウンミーティングであつたり、検討委員会の中でこういう取り組みがあつて、児童生徒数少ないんだけどこうやっていろんなことをやりながら、小規模校なりに一生懸命やっています。逆に言えば、きめ細やかな目の届く教育ができますよ、みたいなことも言ってるんですけども、やっぱりその中でもある程度の集団は必要ですよという、もちろん小規模校は残してほしいという声もありましたし、そういう中에서도、ある程度の規模はやっぱり必要ですよっていう声は多くて、こういう答申になってきたんだというふうに私は理解しております。

（教育長）

どうもありがとうございます。8 ページの答申のところにですね基本方針のところに、真ん中辺に変更後というのがございます。

その(1)で共創郷育をより着実に推進できるように、コンパクトな見附市の良さを生かした学校配置等を検討し、統合整備を行うと、その際に児童生徒の多様性に対応できる学びの場の確保教育の質を保障するため、小規模で特色ある教育を受けることのできる環境の整備も大事にするように努めるんだという答申をいただいています。

(2) (3) 小学校中学校それぞれ規模の件について触れていただいておりますが、私もこれをどう両立させていくのかというところを大事に考えたいというふうに思っています。子供たちの中には今、大規模校にいる子供たちが、やっぱりうちの子はちっちゃい学校できめ細やかに見てもらった方がいいというお子さんはそういった形でオープンスクールという制度を利用してみつば三校に通わせていただけてるお子さんもいらっしゃいます。一方で現在みつば三校に通わせられているといいますかそういうお子さんの中にうちの子はちっちゃい学校じゃなくて、実はもっと大きい学校で切磋琢磨できるような、そんな環境の中でもっと力を伸ばしてやりたいんだと、そんなふうに考えられる保護者の方もいらっしゃるというそんなお声もお聞きしているわけです。

ですので、子供たちがそれぞれ自分のお子さんがですね、どんな環境を準備し市全体として準備してあげれば、そういったニーズに対応できるのか、ここがこれから一番悩みどころだというふうに思っておりまして、これをしっかりとまた両立させていくような仕組み作り学校作りといいますか、これを大事に考えていきたい、そんなふうに思っているところです。ありがとうございました。

（参加者）

すいません、ちょっと関連でちょっと私追加質問させてもらいますけども、いわゆる相対的といいますかね、全体で見附全体で考える云々であれば、そうはいつでも学区割というのがしかれているじゃないですか。例えば田井に生まれれば田井小学校に行きなさい。見附に生まれれば、見附小学校か場合によっては第二小学校に行けるかどうかわかりませんが、いずれにしてもその学区割といいますか、そこに生まれるとその学校以外はオープンとは言ふものの、例えば私見附の樺沢ですけども樺沢の子供が見附小学校に編入させてくださいと言うと、すんなり簡単に行けるんですか。

（教育長）

ありがとうございます。

現在、その学区外就学基準というのがありまして、何かしらの理由が、例えば転居をしたてだとか、あるいはそのお子さんのいろんな状況の中で、申し出をしていただいて違う学校にということは認めております。

その学外就学基準の一つにオープンスクール制度特認校制度というのもありまして、現在それを利用して、市内どの学校からもみつば三校に行けるという形をとっている、そういう状況でございます。

（司会）

よろしいでしょうか。それではまたご発言があればお願いしたいと思います。それでは、どうぞ。

（参加者）

上北谷に住んでいる〇〇といいます。

私はこの答申にとても、私達上北谷に住んでいる保護者の気持ちをよく汲み取ってくださったなと思って、感謝を申し上げます。私、実は移住してきたんです。オープンスクールに通わせて、県外から移住してきました。お姉ちゃんの時ですね、もう10何年も前ですが、そのときは少人数の学校で学ばせたくて上北谷小学校で学ばせたくて私達は移住してきました。ですが、今3人目の子供が一番下の子供が学校に通っているんですが、同級生は3人です。やっぱり厳しいです、正直。新入生、今年は1年生2人です。

その人数になってくると、いろんなことが制限されてくると本当に肌身を感じています。私は、本当は、本当は上北谷小学校を残して欲しいという気持ちはありますけれども、子供が今通っている小学校の現状考えると、やっぱりそれは言えなくなってきていて、本当に、本当に何ていうか、ここで入れているんですが、すごく心が苦しいんですがやっぱり教員の問題にしても、教員もだんだん人数が少なくなってきていて、小規模校に来る先生もなんていうか、ここでは言いませんがなかなか大変でやっぱり学校に割り当てられた、私も教員をやっているのわかるんですが、業務の膨大さは、大変さもあるので、何かその先生に強く言うわけでもないんですが、何か目に見えて本当に大変そうだなと思っています。

ただ、手厚く指導していただいていることは本当に感謝しているんですが、3人になったときに修学旅行とか運動会とかそういう行事で大体1位になる子が決まってくる、喧嘩をしてしまう子も決まってくる。クラス替えはもちろんという中で、やっぱり本当にちょっと少なすぎて困っている部分があります。

例えばなんです、遠足とかも去年ちょっと担任の先生がお休みされたりしたら遠足にも行けなかったりとかってこともあります。学校で言うと、スクールバスが大きな学校にわりかしつく、ここで言っているのかわかりませんが、スクールバス割と大きな学校が押さえているので小規模校でスクールバス取ろうとして遠足に行こうとしてもなかなか行くことができません。

そんな現状があると、やっぱり子供をこのまま学校に通わせていていいのかなっていう不安はとてもあります。なので、この、もし小規模校のやっぱり機会があれば、小規模校の通っている保護者また児童はもちろん大好きで、小学校に行っているのでもいいんですが、

よく保護者とか聞いていただきたいなと思います。地域の住民として学校を残してほしいという気持ちはすごく、すごくよくわかるんです。

私も残してほしいと思うんですが、やっぱり通わせている現在通っている子供たち、保護者、そして学校の先生の意見を本当に丁寧に汲み取っていただけたらなと思います。私はこの答申ですごく思うのは、見附市はどんな子供を育てていくのかっていう、一貫した姿勢をやっぱり持つ、持てるどころビジョンを持てるといいのかなと思っています。

例えばですがさっき附属小学校という言葉が出ましたが、附属とかでは、今保育園幼稚園から一貫してこういうふうな子供を育てたいというプランを持っています。

なので、本当にいろんなところと連携をしながら、どんな子供を育てていきたいのかっていうビジョンを打ち出して、ただそのためにはこういう小学校があったらいいよね、こういう中学校がいいよねっていうことで前向きに議論できたらいいのかなと思います。すいません、まとまらない意見ですが、以上です。

（事務局）

ありがとうございました。一応、見附市の教育ビジョンといいますか、基本理念というのがありまして、「ふるさとみつけを愛する子供の育成を目指します」「世に役立つことを喜びとする子供の育成を目指します」というのを基本理念としてやらせていただいております。よろしくお願いします。

（司会）

ありがとうございます。それではまた発言があればお願いしたいと思います。

はいそれでは、前の方です。

（参加者）

樺沢町の△△と申します。

ええとですね。いろんな、何て言いますか、やり取りの経緯が書かれていて方策があるんですけども、この方策から何をくみ取って、どこの学校が残って何人の学校にしていくなのか、見附市全体で何校にして、何名が適正なのかといったことが読み取れる項目ないんですね。みんなって言ったらいかな、概念的な内容ばかりでして、何狙ってるのかなって、何を意図して進めようとしてるのかなっていうのが読み取れないんですよ。

それで人数の面だけ見ますと、例えば4ページ目の令和13年度の小学校の人数を見ますと、各学年、おおよそ200名ちょっとなんです。この人数を文部科学省の推奨している9ページに書いてある1学年は2学級以上が小学校の場合望ましいよねっていう、このことを満たすと多分3校にしかないんですね。この文部省の規定を遵守しようとする小学校3校だけになるんです。ちょっと乱暴だよねと、人数だけでなんかまとまらないよねと。何校にすると可能なのかなとか、そのとき子供たちの通学ってどうやってやるのかな。みんなスクールバスを出して送り迎えですか。あるいは地域コミュニティがコミュニティバスを走らせてなんてやろうとしてるのかなとか、具体的な絞っていかうとする案が読み取れないのとどんな姿になるかなという予測というか、想像ができないので具体的にこんなリスク、こんな懸念が出るよねっていうアイデアとそれを実施しようとしたときのメリットだけじゃなくて、こんなリスク、こんな懸念が出るよねっていうのがこれ見

てるだけだと、読み取れないですよ。

このうちアンケート答えていくとすれば絞れていくのかなと思ってアンケートを見ると、アンケートも子供たち目線でどんなことがやらせたい、やりたいと思ってるかなはよく聞こえ取れるんだけどこれをまとめるそうどこの学校廃止廃校にして、どこの学校残したらいいのかとかっていうところに繋がる脈絡に読み取れないんですよ。

どんなふうなステップでこの皆さんの意見、あるいはアンケートを集約すると、どういう組み合わせでやってくとそれが、これがゴールかなっていうのが出ていく道筋が見えないんですよ。

学校の生徒数で絞っていくとか、あるいはロケーションで、そうは言っても、見附市全体のこの場所からそこに絞ると子供たちはどんな距離移動しないと駄目で、登下校が可能なのかとか、あるいは修学旅行もそうだし日々毎日の部活動だってやりたいだろうし、どうやって学校生活が運営できるようになるのかなとかそういったのがね、ちょっと読み取れてこないよねっていうふうに感じてまして、スケジュール見ると、年度内にはもう適正配置の計画を公表しますってどうやって絞ってくんだろうかっていう脈絡がものすごく見えないんですよ。

この適正案を出されたときに、はいこんな案がありますって言ってボーンと出てくるのか。人数で見たときに一応通学の範囲も考えると、これは可能なんじゃないかなというA案ですとか、あるいは今後、先見てたときに、維持費とかも考えると、費用面は見えてないけど見なきゃいけないと思います。費用面も見てそうすると、この先、令和13年だけじゃなくて、もっと30年40年見たときにもこういうふうにやると成り立っていきそうだよなっていう、費用面を見たときにはB案でこんな案とか、あるいは修学旅行とか何とかって最低限2クラスだけでもこれぐらいの人数あればクラスとして成り立つよねみたいなC案でいくとこんなとかっていう、ちょっと乱暴に今三つぐらい挙げましたけども。

何かそういう具体的なこの問題解決するとこんなふうになるよね、でも違うとこの解決に行くとかこんなふうになるよね、全てを解決できる良い案なんてないと思いますから、そんな解決したい着眼点に目を向けたときのソリューションでA案B案C案があるんだけどA案にやると逆にこういう弊害リスクが出ます。B案の場合も全部うまくいくわけじゃなくて、逆にこんな問題点が出ますし、C案もそうです。そういったこの複数案とメリットデメリットが見えるようになってないと、どうしようかって言ったときに、皆さんからの意見もらいようがないと思うんですよ。

そんなふうなまとめ方と、そういう意見交換をする場を年度内に計画公表した、するときにはそういったものを提示して、その後、そういう意見交換がされないとこれひょっとしたら年度内に出したこれでもう決定になっちゃうんじゃない。

その前の意見交換会何個かあるけど具体的な案が示されるのって、年度内の年度末というか、この最後にしか出ないんだよね。

でもそこに行く前に、A案B案C案とかを出してメリットデメリットを比較して、また意見もらって、そうすると、この中のC案プラスアルファのこんな案がいいのかなとかいろいろ出てくると思いますから、それが今年年度内にこんなふうな案が妥当かなとかって

うふうな出方だとまだ何となくイメージ湧くんですけども、これはスケジュールと今公表された資料だけ見ても、これみんなアンケートもらってもどうやって具体化に繋げるんだろうかなとか、具体的にそれで出来上がった学校って成り立つのかな、市の財政も大丈夫なのかな、子供たちは通えるのかな、修学旅行部活動、あるいは日々のクラスの授業大丈夫なのかな。

いろいろね、こう考えると、どれもうまくいくような案が浮かんでこないんですよ。だからそんなふうな進め方、あるいは時間のさき方がされないともまずいかなというふうに思っているのが一つ。

それと、子供の数どんどんどんどん減ります。なんで減るか。日本全国みんな減るからその中の1新潟県1見附市だからしょうがないよねという部分もあるかもしれませんが、私なりに見てますと子供のうちに子育て支援をやっていっても、その子供はいずれ就職して自分でお金稼いで家族養って家庭を持つことができる状態が作れないと結婚もしないし、結婚に未来希望を抱かないから子供できないんですね。就職どこにしようかっていったときに、子供がやりたい職種が地元になかったらここに残らないんです。希望する職種仕事がある場所に移動するんです。

あるいは、高校生まで自宅から通っても大学のときに違う地域に行くと、そののみんなと色々な情報交換やったり、考え方、日本の中の企業だとか産業だとか見たときに、自分のやりたい職種ってどこのどの会社、どんな産業ってのを考えたときに、見附に戻ろうじゃなくて大学に行ったらそのときに身につけた感性で日本なのか海外なのか、日本でもどこに行ったらいいのか、そういう目線で仕事を見つけます。

そうすると、残念ながらここから通うターゲットとなる、対象となる企業なり職種がなかったら、戻ってこないんですよ。そういうところが戻ってこないだけでなく、契約社員もこれ働き方の一つだって言ってワーツと広がった途端に、あのときはもう日本の中でも製造業、裾野の広い製造業がどんどん海外にシフトしていったもんで、派遣従業員で仕事やっても家族養えないよなっていうそういう時代がいつときありました。今もあるのかちょっと私にはよくわかんないんですけどもそうするとどんどん人口減少というのは減っていくので見附市の中でその就職先っていうかな、家族持ってここで食べていけるよ、見附市だけじゃなくて、ここを拠点にして通えるところ、三条燕から長岡がある、ある広範囲なところでここに拠点を構えながら就職できるよねっていうふうな企業なり職種なりが見つかってくるとここに定着できるんだけれども、それって見附市単独でなる話じゃないから、市は行政別なんだけれども同じ日本ですよ。

だから、近隣の市とタッグ育んで地元に残る人が自分の食いぶちを稼いで家族養えるような産業企業の構築あるいはリストアップしたりそこをわかるように就職世代に向けてPRして、うちに来るとこんな仕事があるよ、生活できるよ、うちに来ないっていうそんなふうな積極的な活動を、就職適齢期の人めがけて、あるいは学校にまだいるんだけれども、その人たちがそろっと就職に関心を持つことになるという情報インプットしてくる。県外に出て、大学に入ってる人にも行った先で見つからないときに地元に戻ると、こんな会社でこんな仕事があるよみたいなことが積極的に打って出せる。

そうすると一旦出た人も戻ってくれるかもしれないし、地元にいる人も知らない会社知らない産業で、ああここだったら自分が大人になって、家族養っていける就職口となりうるよねというのが見つかり、子育て終わって就職するしてからも地元に残る。そうすると、この人数の子供の人数減るのに歯止めがかけられる。そのことをやらないと、ずっとゼロになって、学校の適正数は3校ですねって言ったのがもう今一校で十分だねなんていう時代が続きますから、そういったことも抱き合わせて教育委員会とは違うエリアかもしれないですけども。

そういったことを見附市単独じゃ無理ですから、周辺の行政地区と一緒にタッグ組んで地元就職できるところってこんなのあるよこんなふうな職種があるよというのが啓発してお知らせして、なるだけ地元に残ってくれるようなことをやっていかないとこの子どもの歯どめも減らないんじゃないかなって思います。以上です。

（司会）

ありがとうございました。今ほど大きく2点のお話をいただいたと思うんですが、後段の就職とか定住促進についてはちょっと今回の答申であまり触れないことなので、そこはご意見として頂戴させていただいて前半の部分の見せ方というところについて部長の方からお願いします。

（事務局）

はい、ありがとうございました。この答申を読んでもなかなか具体的な姿が見えなくて、ちょっとゴールが読み取れないというようにお話をいただきました。確かにこれはですね、見附の教育をどのようにしていったらいいですかということについて、考え方、具体的な方策を検討委員会に出していただいたものなんですね。なので、考え方だったりするので具体的な、もう少し何校になるみたいなそういうのではなくて、なかなかそういうイメージがつかみにくいというのはおっしゃる通りでありまして、ただあくまでもこれはこの答申について説明させていただいたことになります。またこの答申についてどのように感じますかっていうアンケートでもあるので、その後の具体的な複数の案があってどういうメリットがあってというような案ではないので、ちょっとイメージされてるのは違ったのかなというふうに思っております。そのあたりはですね意見交換会だったり、アンケートを通じて最終的に教育委員会と市と協議しながら、適正配置計画案としてお示しさせていただきたいというふうに考えております。

（司会）

ありがとうございました。他、皆さんの方からご発言あればまたお願いしたいと思えます。はい。お願いします。

（参加者）

すいません、ちょっとマスクを外させてもらって申し訳ないんですけども、まず私は山の分校育ちです。決して多い同級生がそこで育ったわけじゃないんですけども、統合すること、一緒にまとめていくことだけが教育の場じゃないと思ってます。

同級生そのものあるいはまた私の上、下を見てもちゃんと立派に生活、確かに時代はもう50年60年経ってますから、環境が違うとは思いますがさっきいろいろおっしゃら

れた人数だけではないんだと、子供たちの将来のためとこういう提言をしていらっしゃるわけですので、違った角度から見附市は考えていただいてもいいんじゃないでしょうか？他の市町村が統合していくんであったら見附はそうじゃない。拠点は作るけども、分校でもいいじゃないですか。

今そういう制度が認められてるかどうか私はわからないので勝手に話してますんで、許していただきたいと思います。

何か行事大きな行事のあるときに、過去振り返りながら話してるもんですいません、本校の生徒と一緒にやる。これを楽しみにして分校で育った、そんな男ですので、本当に今聞いてもただ人数のために、経費のために、これはもちろん私は必要な一環だと思います。大事なことだと思うんですけども、もっと違う角度から見ていただく方向をちょっと考えていただければなと。アンケートで市民全員から取るのか。市がどういうアンケートを取りなすのかわかりませんが、大事な地域の方にとっては大事なことだったと思うんですね。

学校がなくなれば地域が過疎化する大きな要因にもなりかねないけどちょっと教育の今回の統合とは違うのかもわかりませんが、さっきおっしゃられる方がいました。

やっぱりそういう部分をしっかりしていかないといけないのかなと。そしたら分校で拠点を作って、何かあったときは一緒に従事する。本当にそういうことを望む、あるいはまたその反対の方をことを望む親御さんがいたらそれはそれで、今さっき教育長がおっしゃったように、そういう制度がどっちの方向にもあるような気がしますのでそういうのを活用していただきながら行ったらいいのかなっていうふうに勝手に思いました。

ちょっと昔を思い出しながらのご意見ですいませんでしたけども、よろしくお願いします以上です。

（事務局）

はい、ありがとうございます。

まとめることだけではなくて違った角度から見ることも大切ということで、全くその通りでございまして小規模だから全部統合しようとか、そういうことではなくて、小規模な学校も大切にしていこうということはこの答申の中でも書かれていますので、そういう視点は大切にしていきたいというふうに教育委員会の方でも考えております。

（司会）

ありがとうございます。今ほどご発言いただいたのは地域ご町内とか地域は差し支えなければお名前をはいお願いいたします。

（参加者）

〇〇〇

（司会）

ありがとうございます。他、皆さんからご発言あればお願いしたいと思います。

（参加者）

はい。柳橋町の△△と申します。時間も押し迫っているので簡単にさせていただきたいと思います。私、検討委員会で応募して委員をさせていただきました。

ですが会議ではどっちかっていうと足を引っ張るような発言が多かったかなと思います。今端的に何点か項目的にお聞きしたいと思います。

一つは教員向けにアンケートを取るというふうに書かれています。これは公表されるのでしょうか？内容について。

それから二つ目。児童生徒に対するアンケートをとるということが見えませんが取らないのでしょうか？子供たちへのアンケートはとらないのでしょうか？それから公表から次の計画までの間、時間があまりないように思われます。

それで結果がまとまったら、その段階でそれを受けてこういうふうな方向で計画をまとめようと思いますよというそういう説明会というようなものが入ってもいいんじゃないかなと思います。ここにあるようにパブリックコメントと並んで説明があるっていうことは、もう完成品について意見を聞くというような形でもう修正は不可能だと、じゃないかなと思われます。

それから何番目かになりますけど、アンケート今回拝見いたしました。もう既に実行されてると思います。ただ、率直に非常に答えづらいと思いました。例えば、特色ある教育を行うことによって云々とありますけれど、今日スライド見た方は特色ある取り組みつてのは視覚的にもわかりましたけれど、アンケートだけを見た人は、私だけかもしれませんけれど、なかなかイメージがわきづらいのではないかなと。それから「答えられない」という「わかりません」という項目がないので、全て考えた上で判断したように理解されると、これはまたこれでいいのかなと。市民アンケートの自由意見の中にもそのような意見があったと思います。

それから加茂市の少なくとも、ちょっと僭越ですけど、加茂市のアンケートから見ればメリットデメリットを並べてあって比較的答えやすいのかなと思いました。質問数は八つぐらい。ここより増えて思いますけれど、そんなふうにもしかしたらこの会議の後にアンケート固まって実施されるかななんて勝手に思ってきたところです。

それから最後になります。最後二つ。皆さんがなかなか見えにくいとおっしゃってた中で、答えになるかどうかわかりません。そして、ちょっとひっくり返したような話なのかもしれませんけれど、検討委員会が7回8回開かれました。その中の一つに注目していただいてもいいのかなと思うのが、第7回の資料の2番だと私は個人的に思っています。

これ赤黒で書かれていて、検討委員の生の声というか、それも反映されていますので、今日のお話に通じるものがあるのかなと思ってます。

最後、長くてすいません。ここではいじめとか不登校とかそういった子供さん方の話あまり出てきませんでしたけれど、いずれの段階ではきちっと光を当てて述べられるのかなと期待をお願いしたいなと思います。長くなりすいません。

（事務局）

はい、ありがとうございました。まず最初の方にあった教員、教職員向けと子供たちへのアンケートについてですが、教職員向けのアンケートについては結果も併せて公表される方向で考えております。あと子供たちについての直接的なアンケートは、今回は見送らせていただきまして、保護者に直接アンケートを送らせていただいて、回答をいただい

ただけるよう送らせていただきました。

あとその後、方向性についての説明会という話だったでしょうか。具体的な計画案がないまま、なかなか説明もしにくいというのもありましてちょっとそれは現在のところ考えておりません。

次に、アンケートに答えにくいというところなんです、今見てもらった人にはわかるという意見だったと思うんですが、一応案内の中でも詳しくはホームページで載ってますのでそちらをご覧くださいということで案内はあるんですけども、どうしても紙面の都合上、あんまり長い資料を付けることができなかったの、そのようになっております。

あと答えられないという質問があるということなんです、一応私達の想定ではわからない場合は空欄になるのかなということで、「わからない」という答えはちょっと作ってなかったところであります。

加茂市さんの例がありました、メリットデメリットがあってもよかったのではないかと、ということで、その辺私達もちょっと検討はしました。検討した中で今回のこのアンケートということになっております。以上であります。

（参加者）

すいません。子供からも聞き取らなくてもいいんでしょうか？条例ができて、子供計画にも子供の意見を尊重するというふうに書かれていたのじゃないでしょうか？条例は1年前、1年前にできましたよね。子供計画はこの3月にできたと思います。子供の意見、小学校中学校の子供さんの声、生の声を聞く必要はないのかな。これ以上申し上げません。

（司会）

回答の方はよろしいですか。では他、皆様方からご意見は終わりでしょうか？一応所定の時間になっておりますが、まだ一、二問ぐらいであればと思いますけれども。それでは、はい。

（参加者）

すいません。椿沢の□□と申します。何人かの方から出ておりましたけど、今回からアンケートが出てからこれからの計画までのスケジュールはなんか忙しいのではないかと、という話がありました。アンケート結果が、6月末があつてその後集計がいろいろ集計されて発表が、公表が8月下旬になってまして、同時並行でいろいろそのアンケートを見ながら計画も立てられていくんだろーとは思っておりますけれども、何かアンケートをどういうふうに反映するのかなっていうのが、反映する時間って計画に反映できる時間ってあるのかなという気がしてならないんです。元々何かそちらの方でも何か事務局側として何となく今、今現在でもお持ちなんだろうと思って、そこにアンケートがどう多少反映されていくのかなと思ってるんですけど、何かアンケートの結果って反映されるのかな、何となくのスケジュールと不安になっていきます。

またこの計画の案というのは、何人かまたお話出てきてますけども、この案ていうのは今んとこどういう形で何か出てくる。こういう案にするとこんなメリットデメリットがありますよみたいなことを出そうとしてるのか、またA案B案C案みたいな案を出そうとしてるのか、いやそうじゃなくてももう大体この方向でいきたいと思ってるという方向でー

本で絞って出そうとしているのか、そのところがもし今、考えがあれば教えていただければと思います。

（事務局）

はい、ありがとうございました。アンケート等から案の公表までが短いのではないかと、ということで反映されるか不安ということの意見をいただきました。

確かにこのアンケートはですね、この答申についてのアンケートでありましてその中で自由意見として意見とかいただくところもあります。

できるだけ反映させるようにはしていきたいと思いますが、その中でもいろいろな分析ですね、例えばどういう年代の方がどういうふうを考えられている、これから小学校に通われる年代の方がどういうふうを考えておられるのか、また子育て終わった方はどういうふうなことを考えておられるのか、そういう分析をしながらできるだけ反映させていきたいというふうを考えております。

あと案について、どんな感じの形で出てくるんだということだったかと思います。今、作成段階でして最終的な形がまだ見えてないので、何ともあまりいい答えをできないんですが、今いただいた意見を参考にしながらできるだけ皆さんにわかりやすい、受け入れてもらえるような案ができたというふうを考えております。

（司会）

ありがとうございました。そろそろ長時間過ぎましたので、もしあればこれで最後にさせていただきたいと思いますが、ご発言あればお願いしたいと思います。

それではよろしいでしょうか。今ほどアンケートもございますので、なかなかこの場で言い切れないこと、そういったことがあれば、アンケートの自由記載欄のペーパーだとちょっと少ないですけども、Webだとかなり長く書けるようになっておりますし、またペーパーであっても別紙で出していただいても構いませんので、そういったアンケートがまた今やっておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

では皆さんからありませんので、以上をもちまして、見附市小中学校の適正規模に関する意見交換会を閉会させていただきます。

本日は平日のお忙しい中ありがとうございました。気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。